

平成31年度琉球大学法科大学院  
B日程（甲方式） 未修者コース 入試問題

小 論 文

平成30年10月28日（日曜日）  
10時00分～11時30分（90分）

注意事項

試験開始の合図があるまでに、次の注意をよく読んで、間違いのないように受験してください。

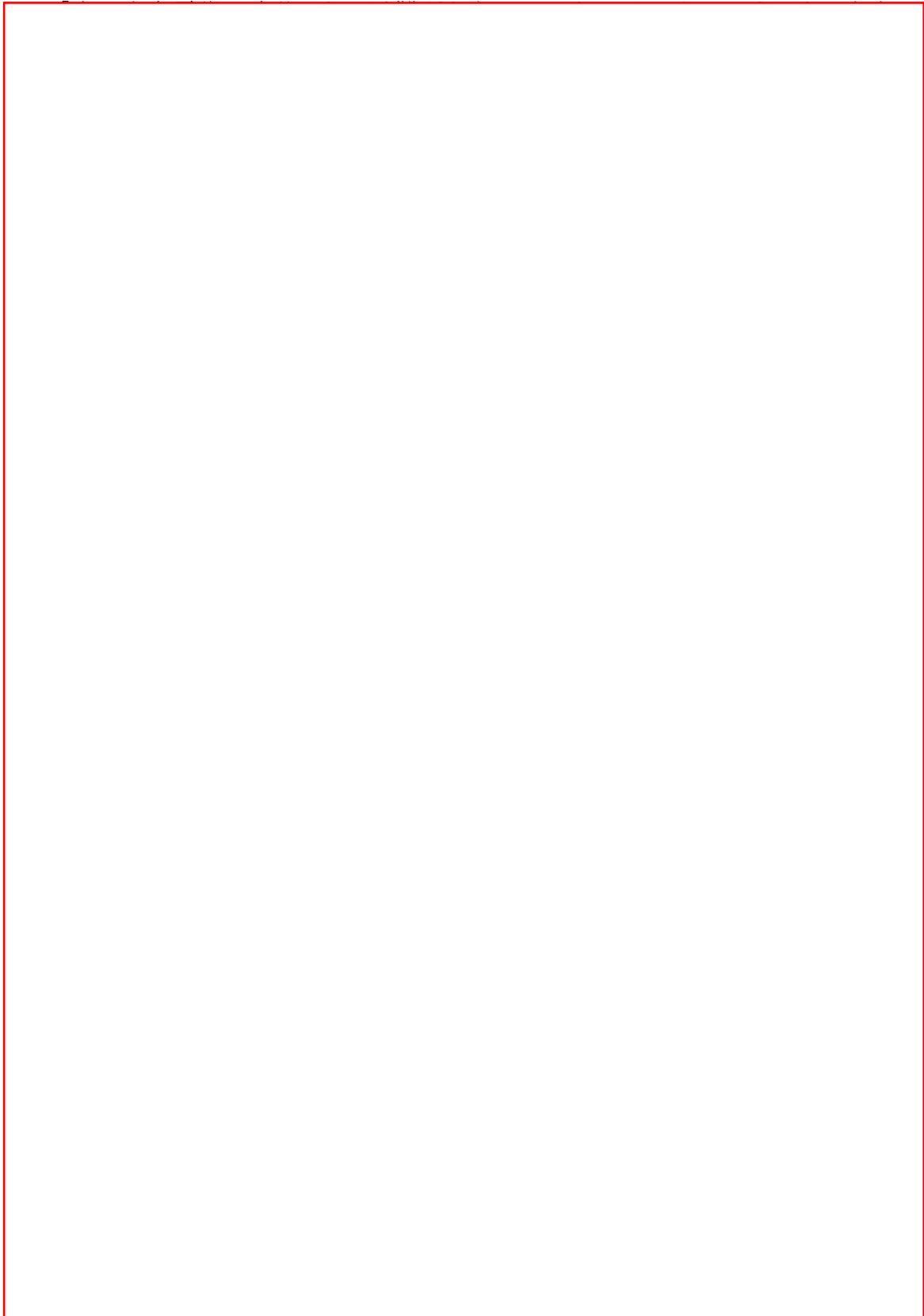
- 1 この試験では、問題冊子1部、解答用紙4枚、下書用紙5枚を配布します。  
試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 試験開始後、問題の部分に印刷不鮮明、汚損等があれば直ちに申し出てください。
- 3 解答は、必ず解答用紙に記入して下さい。解答に用いたすべての解答用紙の所定欄に、受験番号、氏名を記入してください。
- 4 黒色または青色であれば筆記用具は問いません。ただし、鉛筆書きの場合は文字が薄くならないように十分注意してください。
- 5 試験開始後は、途中退席できません。用便を希望する際は手をあげてください。
- 6 試験終了後、解答用紙を回収するので、指示があるまで席を立たないでください。  
配布した解答用紙は、書き損じや未使用のものも含めて、すべて回収します。  
問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。
- 7 その他は、すべて監督者の指示に従ってください。

## 問題

下の文章は、ニュースサイトに掲載された「2才児発見、尾畠春夫さんが説くボランティアとしての心がけ」と題する記事である。尾畠春夫氏が考える「ボランティアとしての心がけ」を200字程度に要約したうえで、被災地ボランティアの在り方に関する自身の意見を1000字程度で述べなさい。

### 【文章】

(文章については、著作権の関係で当Webページには掲載していません。)



※ 女性セブン 2018年9月6日号（「NEWS ポストセブン」より）

(出題趣旨)

被災地でボランティア活動を継続して行っている尾畠春夫氏の姿勢に関する文章を題材として、尾畠氏が考える「ボランティアとしての心掛け」についての要約と「被災地ボランティアの在り方」に関する自身の意見を述べることを求める問題である。

筆者の考えの要約では、文中で述べられている、心構え・参加する際の具体的準備・被災者に接する際の姿勢などについて、簡潔に要領よくまとめることが求められる。

また、自身の意見を述べる際には、ボランティア一般についてではなく、被災地ボランティアの在り方を問われているのであるから、被災地という特殊性を十分に踏まえ、文中で述べられていること以外に配慮すべき点も想定しながら、「在り方」についての自身の意見を論理的、説得的に述べることが求められる。

(採点基準)

要約 (30点)

- |                    |        |
|--------------------|--------|
| ①尾畠氏の心掛けのポイントの押さえ方 | 20点    |
| ②まとめ方(論理性、表現)      | 10点    |
| ③裁量点               | -5～+5点 |

自身の意見 (70点)

- |                  |          |
|------------------|----------|
| ①自身の論拠の説得性       | 25点      |
| ②反対の立場への配慮       | 25点      |
| ③全体的な論理性、説得性、表現力 | 20点      |
| ④裁量点             | -10～+10点 |